

万葉の地学

つきかたぶきぬ

南 寿宏

今回は、万葉集最大の詠み手の一人、柿本人麿の歌を採り上げる。万葉の地学と言っておきながら、それほど地学と関連がないことはご容赦願う。(最後に地学の問題を出すので、それで許してね。)

東	野炎	立所見而	反見為者	月西渡	万葉集 巻一 48 柿本人麿
東の	野に炎の	立つ見えて	かへり見すれば	月傾きぬ	
ひむがしの	のにかぎろひの	たつみえて	かへりみすれば	つきかたぶきぬ	
東の野に朝の光がさしてきた。ふりかえって見れば、月が西の空に移っている。					

この東野の歌は、中学校もしくは高等学校の国語の教科書に必ず載っているの、ご存じの方も多と思う。人麿の代表作である。

この歌の上の句(一二三句)と第五句には、古来より複数の読みが存在するので、紹介する。

(1) 上の句『東野炎立所見而』

この歌の上の句『東野炎立所見而』を『ひむがしの のにかぎろひの たつみえて』と最初に読んだのは江戸時代の国学者賀茂真淵で、それ以前は『あづまのの けぶりの たてる ところみて』であった。

玉葉集 (真淵以前)	東野	炎立	所見而
	あづまのの	けぶりの	たてる ところみて
(玉葉集は鎌倉時代後期の勅撰和歌集。興味ある方は、google 等の検索エンジンでお調べ願う。東野の歌は巻八 1124)			

このように原文と読みを並べて表示すると、真淵以前の読みは万葉仮名の原文に実に忠実であることが分かる。しかし、真淵大人はこれに満足しなかったようである。

賀茂真淵	東	野炎	立所見而
	ひむがしの	のにかぎろひの	たつみえて

二つを並べると、真淵の読みの方が洗練されているような気がするし、洗練されているからこそ、この読みが採用されたのであろう。しかし、人麿が詠んだのはどっちなのか。あるいは、これらとは異なる第三の読みが正しいのか。今となつては、分かるすべはない。(万葉集に複数回登場するが現存していない人麿歌集が見つければ、決着がつくかも知れないが、1,300年以上前のものが発見される可能性は極めて低い。)

(2) 第五句『月西渡』

第五句『月西渡』は、意味は明け方、月が天頂を通り越し、西に移ってきた、ということ、素直に『つきにしわたる』と読めば、まったく問題はない。しかし、鎌倉時代に仙覚が万葉集のほぼすべての歌に読みを施した際に、『月西渡』を『つきかたぶきぬ』と読んだことから、それが一般となった。これに異議を唱え、『つきにしわたる』を主張したのが江戸時代の国学者、契沖である。

手元にある出版物を見る。すると、『つきかたぶきぬ』は講談社文庫(令和の生みの親と言われる中西進の編集)を初め、ほぼすべての本で採用されているが、『つきにしわたる』は伊藤博(萬葉集釋注一 集英社文庫ヘリテージシリーズ)のみである。

この伊藤の読みは独特である。

「ひむがしの のにはかぎろひ たつみえて かへりみすれば つきにしわたる」

この読みについての伊藤の解説は、上述『萬葉集釋注— p479-480』を参照されたい。
 (3) 別種の万葉仮名

さて、東野の歌を、次の『あかねさす』の歌と比較してほしい。

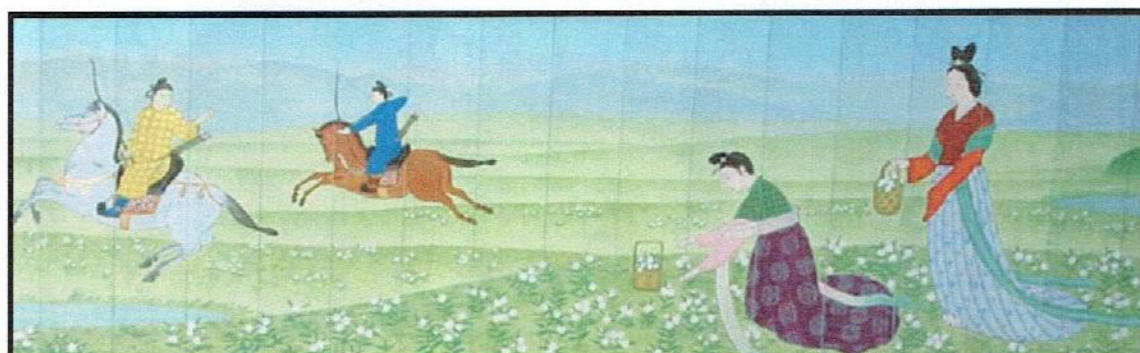
茜草指	武良前野逝	標野行	野守者不見哉	君之袖布流	万葉集 卷一 20 額田王
茜さす	紫野行き	標野行き	野守は見ずや	君が袖振る	
あかねさす	むらさきのゆき	しめのゆき	のもりはみずや	きみがそでふる	

(愛しいあなたは) あかね色の紫の野を行き、しめ縄を張った野を行く。野の番人が見るではないか、そんなに袖を振って私を見つめたら。

『あかねさす』はほぼ一言一句が万葉仮名と対応しており、容易に元歌が復元でき、曖昧さは解消される。助詞等を省略し、西渡の意識を含め、復元が困難な東野との違いは歴然である。

万葉仮名には、このように、意味だけ表したものと、読みを一言一句忠実に表したものが存在する。どちらが元歌の正確な復元が容易かは、言うまでもなからう。

このように、万葉集の読みには、どうしても、曖昧さがつきまとうのであるが、万葉集原文が『あかねさす』のように、例えば、『月二四綿留(ツキニワタル)』あるいは『都木方武絹(ツキカヅキヌ)』と表示されていれば、このような曖昧さは雲散霧消するのだが、それは言わば、無いものねだりであろう。



君が袖振るレリーフ

滋賀県東近江市船岡山万葉の森公園設置

(4) 余談

この歌は、後世、俳句にアレンジされている。

菜の花や 月は東に 日は西に	与謝蕪村
----------------	------

与謝蕪村の代表作。脱力ですね、悪い意味ではなく。

(5) そろそろ問題を

ところで、この東野の歌は、軽皇子(後の文武天皇)が宇陀の山野(現 奈良県宇陀市)で遊猟したときに人麿が詠んだ長歌1首、短歌4首のなかの一首である(万葉集 卷一 45-49)。そこで問題。

問題	人麿がこの歌群を詠んだのは、旧暦の何月何日か。5首の内容から論ぜよ。
ヒント	玉かざる 夕さり来れば み雪降る 安騎の大野に(万葉集 卷一 45) 黄葉の過ぎにし君が(万葉集 卷一 47)

解答・解説は次号で。